



人の輪と集落の和

平成23年度事業報告書 平成24年度事業計画書



組合員のみなさまへ

第13回通常総会を開催するにあたり一言ご挨拶申し上げます。3年間の任期を終え、代表理事という重責を無事に勤めさせていただきましたことは、組合員はじめ関係機関の皆様、そして共に経営に携わってきた理事や役員の皆様のおかげです。この場を借り御礼申し上げます。

昨年度を振り返りますと、農業者戸別所得補償制度の本格実施に伴い畑作物(麦・大豆)では、生産数量と品質の両面において評価されることから、より一層の技術の向上が望まれ、水稻以上に力を注ぐ必要性が生まれてきました。

また、水稻においては、昨年度は多少価格が持直したものの、依然として厳しい状況には変わりません。しかし、昨年度から取り組みました無化学肥料・無農薬栽培を生かす為、設備投資等も含め検討してまいります。

野菜において、秋冬野菜の生育・収穫量はまずまずでしたが、年間を通じた栽培体系を見直し、地産地消を目指した栽培を考えることも必要だと感じました。その結果として事業全般に亘り収益目標には至りませんでした。

国においては「食と農林漁業の再生推進本部」にて持続可能な力強い農業を育てるための対策が検討され23年10月に基本方針・行動計画がまとめられました。その①人・農地プラン②新規就農③農地集積の施策が講じられようとしています。わが集落においては、すでに実現・実行していますが、6次産業化への取り組みは遅れています。第5次3ヶ年計画の中間年にあたり、計画の実現にむけて「農」のDNAを発揮してまいります。

来月で東日本大震災から丸1年になります。あらためて一日も早い被災地の復興を願うものです。幸いにして直接被害のなかった私たちは、気づかないうちに以前の生活に戻っているように思えます。何不自由なく生産できることに、もっと感謝しなければなりません。震災をうけ、今年の“今年の漢字”は「絆」でした。理念である「人の輪と集落の和」はまさにこの「絆」そのものです。

集落営農の目的は、食を守ること、組合員を守ることですが、農地を含めた農村集落を守ること、さらには集落およびその地域を活性化することにあると考えます。年配者の知恵と若者の機動力を生かす現在の仕組みの良さを残しつつ、次の世代に引き継ぐ強い組合を確立してまいります。

平成24年2月26日

人は、人の為に成らずして、人にあらず

農事組合法人 酒人ふあ〜む

代表理事

小林伊佐治

第13回通常総会次第

と き：平成24年2月26日（日）

午後1時30分より

ところ：酒人公民館 2階大広間

1. 開会のことば
2. 代表理事あいさつ
3. 来賓ご祝辞

（ 休 憩 ）

4. 総会成立宣言
5. 議長の選任
6. 書記の指名
7. 議事
8. 役員を選任
9. 閉会のことば

議長氏名	
------	--

議事録署名人	議長および出席理事
--------	-----------

組合員数	56人	出席人数	人
------	-----	------	---

第13回通常総会提出議案

第1号議案 平成23年度事業報告について
平成23年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、
剰余金処分案及び附属明細書の承認について
P 4～P 21

第2号議案 平成24年度事業計画の承認について
P 22～P 31

第3号議案 任期満了にともなう役員改選について P 32

附帯決議 この総会において決議した事項のうち、行政庁に提出する書類で補正・変更を必要とする場合は、その趣旨に反しない範囲内において、その変更を理事会に一任する。

以上のとおり上程いたします。

平成24年2月26日

農事組合法人 酒人ふあ～む
代表理事 小林 伊佐治

平成23年度事業報告書

部門別事業報告

生産部

[栽培]

23年度は、農業者個別所得補償制度の本格実施や、TPP協定参加に向けての協議に入る表明など農業を取り巻く環境の変化が著しい一年でした。

水稻では滋賀県の作況指数は99と平年並みでありましたが、全体的に気象的要因による網目下の増加による減収や中生品種以降の品質低下が観られました。

本年度は、品質、環境に配慮した農業、コスト意識の徹底、的確な栽培管理を目標に取り組みましたが、まだまだ力足らずの状態でした。また本年度より、一部の水田において無化学肥料、無農薬栽培を試験的に取り組み今後にかししていきたいと思えます。

生産物別に報告しますと、水稻については、全体として①5月下旬の低温による茎数不足・穂数不足、②8月上・中旬の異常高温や8月中旬～9月上旬までの日照不足、③8月の夜温の上昇などにより収量の低下(網下米の増)や中生品種以降の品質低下は顕著でした。また、除草体系には気をつけましたが、満足する結果が得られず、課題が残されました。結果として、計画を大きく下回る事になり、安定した収量確保に向けた取組の必要性を感じました。

稲わら供給事業は、水稻の収穫後の天候にも恵まれ、うるち米を中心に稲わらを収束することが出来、昨年を大幅に上回り米の収入減を少しでも補うことが出来ました。

麦については、生育期間全般に渡って、低温・多雨に経過しました。その為、赤カビの防除を2回行いましたが、低温による生育遅れや5月連休明けにかけての降雨や入梅が早く収穫時期の降雨により収穫作業の遅れ等が品質・収量にも影響しました。

大豆については、「種子大豆」「一般大豆」とも9月に入ってから12号・15号台風による倒伏や防除不足による被害粒発生等により収量減を招きました。ただ3連中耕培土機の導入により効率的に培土作業は行えましたが、今度も雑草対策、病虫害対策等課題を残しました。選別については、すこやか営農グループの皆様にも連日最後の磨きをかけて頂きました。

本年度から実施された畑作物の所得補償交付金は数量と品質両面において、評価されることからより安定した栽培管理に努める必要性を感じました。

野菜については、両グループともそれぞれの作物において精一杯の取組をしていただきましたが、春夏野菜(かぼちゃ・春ブロッコリー)の収穫前の天候不順、病気の発生、ハウス野菜は夏の猛暑による生育障害等により、計画を下回る結果になり、圃場の選択も含め見直す必要があります。尚、なごやかグループによる「くんたん」の販売は花野果市でも評価され収入増に繋がりました。ただ、酒人ふぁ〜むとして日々の現金収入を支えているのは野菜栽培であることは、事実であり、日々の現金収入アップは必要不可欠であります。



①穀類生産実績

水 稲	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反
うるち玄米	2070.8	105,610	1,760	8.5	2090.6	95,402	1,590	7.6
もち(羽二重)玄米	322.4	15,475	258	8.0	302.6	10,940	182	6.0
合 計	2,393.2	121,085	2,018	8.4	2393.2	106,342	1,772	7.4

小 麦	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反
農林61号	1,522.9	45,687	761	5.0	1,522.9	36,627	611	4.0
合 計	1,522.9	45,687	761	5.0	1,522.9	36,627	611	4.0

大 豆	計 画				実 績				
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量			
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反	
ふくゆたか	種子用	1,058.9	19,060	318	3.0	1,200.3	17,221	287	2.4
	食糧用	464.0	9,744	162	3.5	322.6	3,339	56	1.8
合 計		1,522.9	28,804	480	3.17	1,522.9	20,560	390	2.0

②野菜栽培形態別生産実績 (年間)

露 地	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	箱・kg	箱/反		収量 (kg)	箱・kg	箱kg/反
ブロッコリー	40.0	2,000	400箱	100箱	40.0	1,025	195箱 50kg	49箱
白 菜	35.0	10,500	700箱	3,000kg	40.4	4,702	270箱 652kg	1,175kg
えびす南瓜	40.0	4,000	400箱	100箱	40.0	220	22箱	5箱
キャベツ	30.0	15,000	75コンテナ	25コンテナ	30.0	7,926	30コンテナ 1,926kg	13コンテナ
いちじく	23.6		1500パック		23.6		937パック	
ねぎ	7.0	3,150	210箱	300箱	0.0			

※実績数値については、出荷日ベースでの生産量を上げています。

※いちじくについては、一部ハウスいちじくを計上しています

ハ ウ ス	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	袋・箱	袋箱/a		収量 (kg)	袋・箱	袋箱/a
小 松 菜	12.0	1,440	7,200袋	600袋	10.0	1,405	7,027袋	585袋
ト マ ト	4.0	1,600	400箱	100箱	4.0	364	91箱	23箱
いちじく	3.0			200パック	2.0			
くん炭							82袋	

※実績数値については、出荷日ベースでの生産量を上げています。

※その他たまねぎ・水菜等の作物を栽培しました。

③耕畜連携稲わら生産実績（JA稲わら生産供給組合）

稲わら	計 画				実 績			
	採集 面積 (a)	生産量			採集 面積 (a)	生産量		
		収集量 (kg)	梱包 (10 kg)	梱包/反		収集量 (kg)	梱包	梱包/反
飼料用稲わら	1,200	48,000	4,800	40	1,000	34,725	5,103	51
合 計	1,200	48,000	4,800	40	1,000	34,725	5,103	51

実績…前度よりパレットによる重量出荷

[労 務]

「我が集落は我が集落民で護る」の言葉のとおり、オペレーターの活躍に期待に期待をして行っておりますが、オペレーターの出役体制が固定的になってきております。オペレーターの出役と、組合員の協力体制等について今後の対策が必要と考えられます。

しかし、新規オペレーターの加入や平日出役など集落営農として明るい兆しを見せてきた1年でした。一方、年齢上昇中のすこやか、なごやか営農グループはチームワークよく効率的に作業をしていただきました。

労働力の体制整備中のなかで労働時間の縮減に取り組んだ結果が下表の通りです。

労務管理実績表

(単位：時間)

	計画	実 績					計画比 (%)	
		役員・OP	すこやかG	なごやかG	その他	合計		
穀類	水 稲 (8品種)	2,600	2,276	242		69	2,586	99.4%
	稲わら生産収集	390	470	71			540	138.5%
	小 麦 (農林61号)	520	595	49		12	656	126.1%
	大 豆 (種子・一般食糧)	2,990	605	2,175		36	2,815	94.1%
	計	6,500	3,945	2,536	0	116	6,596	101.5%
野菜	露 地 (5品種)	3,250	596	1,867		3	2,466	75.9%
	ハ ウ ス (3品種)	1,560	73		1,235	12	1,319	84.6%
	計	4,810	668	1,867	1,235	15	3,785	78.7%
共 通 (営業・事務・機械施設管理)	1,690	1,449			23	1,472	87.1%	
合 計	13,000	6,061	4,403	1,235	154	11,852	91.2%	

②野菜栽培形態別販売実績

野菜	計 画			実 績				
	出荷量	単価 (円)	販売高 (千円)	出荷量	単価 (円)	販売高 (千円)	対比 (%)	
露 地	ブロッコリー	400箱	1,000	400	195	1,466	286	72%
	白菜	700箱	700	490	270	852	240	49%
	えびす南瓜	400箱	1,000	400	134	179	24	6%
	いちじく	1,500パック	400	600	937	344	323	54%
	キャベツ	75コンテナ	10,000	750	30コンテナ	13,933	439	59%
	ネギ	210箱	2,000	420	—	—	—	—
	その他野菜						186	
	小 計	—	—	3,060	—	—	1,498	49%
ハ ウ ス	小松菜	7,200袋	70	504	7,027	62	436	87%
	いちじく	200パック	400	80	—	—	—	—
	トマト	400箱	1,050	420	91		108	26%
	その他野菜						103	
	小 計	—	—	1,004	—	—	647	64%
合 計			4,064	—	—	2,145	53%	

野菜市場（マーケット）別販売実績

品 目	業 販				直 販				合 計	
	大津・京都市場出荷		水口地方卸売市場		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量 (—)	販売高 (千円)
	数量 (束・箱)	販売高 (千円)	数量 (束・箱)	販売高 (千円)	数量 (袋・束・個)	販売高 (千円)	数量 (袋・束・個)	販売高 (千円)		
ブロッコリー	190	259	—	—	15	27	—	—	205	286
白 菜	270	199	—	—	43	41	—	—	313	240
えびす南瓜	—	—	—	—	134	24	—	—	134	24
いちじく	79	17		12	858	294	—	—	937	323
小松菜	5,810	303	240	18	977	92		23	7,027	436
キャベツ	31	274	8	139	1	26	—	—	40	439
ネギ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
トマト	—	—	31	36	60	72	—	—	91	108
その他		11		6		108		164		289
合 計	—	1,063		211		684	—	—	—	2,145

※業販＝JA・市場等への業者を通じた販売（学校給食含む）

直販＝直売所、ネット等を通じた直接販売

③耕畜連携稲わら販売実績（JA甲賀稲わら生産供給組合）

稲 わ ら	業 販		出荷量 (kg)	※出荷単価 (円/kg)	販売高 (千円)
	飼料用稲わら	配 達	34,725	50	1,823
		引 取	—	—	—
合 計		34,725		1,823	
売上合計					1,823

実績・・・前年よりパレットによる重量出荷

機械施設部

総会でご承認いただいた機械投資で、作業効率が向上し大変喜んでおります。

バーチカルハローは、小麦・大豆の播種作業の効率化と排水対策につながり発芽率も良くなっています。

大豆中耕ディスクは、従来の2連から3連中耕ができることから、大幅に作業能力がアップしました。また、例年残暑厳しい時期の中耕であることから、キャビン付トラクターによる作業はオペレーターの労務環境の改善にもつながりました。

また、苗箱洗浄機のリニューアルで洗浄能力が大幅アップし、田植え後に汚れた苗箱が山積み状態になることも少なくなりました。

酒人田園環境愛護会と連携して設置した酒人川南岸の新設道路により、今後農作業の効率化が図れるものと期待しています。

オペレーターの農業機械および乾燥施設の操作技術習得については、若手の育成ができず、結果として熟練オペレーターに頼らざるを得ない状況でした。

ただ、新規に登録いただいた方や、平日に出役いただけるオペレーターが徐々に始めていることは明るい材料です。

修繕費が前年より減っていますが、前年度にクローラートラクターの大修繕という要因があったため、依然改善しない状況にあります。機械の取扱いや保守管理契約を含めた日常点検の見直しができなかったことは反省点です。

① 施設環境整備

取得資産名	支払方法	発注先
ハウスビニールNo.3 張り替え	自己資金（現金） 昨年度支払済	（株）太田種苗
苗箱洗浄機	自己資金（現金）	J A こうか

② 農業機械投資

（単位：円）

物 件	台	取得額	※1 補助金	※2 借入金	自己資金
スガノバーチカルハロー DC230SP	1	1,495,000	427,000	1,000,000	68,000
コバシ3連 中耕ディスク DC301	2	1,200,000	342,000	800,000	58,000
合 計		2,695,000	769,000	1,800,000	126,000

※1 経営体育成条件整備費（融資主体型）補助金にて、借入が条件となるもの。

※2 J A のアグリマイティー資金を活用する。



企画管理部

【主に取り組んだ内容】

- ① 新規事業に挑戦～無農薬・無化学肥料米&果樹
高島の研修を受け、水稻圃場で無農薬・無化学肥料栽培に挑戦しました。健康志向もあり、とれた日本晴は区内でも好評です。また、ふれあい公園の近隣畑地に、デコポン・ネーブル・温州みかんなど柑橘類を栽培しています。
- ② 研修生受け入れ
「酒人食と地域の交流協議会」を主体とする事業で、9月末から半年間、菊地明貴子さんが地域活性化について研修しています。農作業だけでなく、「ふぁ～む通信」制作でも大活躍です。
- ③ 「収穫感謝祭 2011」開催
菊地研修生が企画した「岩手のおいしいもの」は早々完売するなど、寒い日にもかかわらず大盛況でした。今後、定期的な開催を検討していきます。
- ④ 「月給制」「専従者制」の導入
従事分量配当の月払を導入することで出役意欲の向上と、専従者を設けることで作業の一元管理が可能となり、結果として経費削減に寄与しました。
- ⑤ 「ふぁ～む通信」発刊
創刊号より12年ぶりに「ふぁ～む通信」を復活。研修生が取材に奔走し、毎月の活動を紹介していただいています。“酒人弁”シリーズも大好評です。
- ⑥ 自己資本の充実強化
今年度も増資預かり金として組合員から出資を賜りました。組合から出資助成金を拠出していきます。登記時点で出資金に振り替えます。
出資金1口あたり5,000円(内1,000円助成)×394口=1,970,000円



⑦ 視察受け入れ状況

年	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
先	8	17	9	22	46	104	134	82	75	74	50	50
人	247	403	267	408	918	1,760	2,494	1,439	1,336	974	736	928

これまでに、延べ671団体、11,910の方が来村されました。

⑧ 今年度の掲載記事

メディア	月日	内 容
農業共済新聞	1/1	リーダーが語る集落と水田営農の将来
京都新聞	1/29	集落営農「互助の心」全国トップ
JAこうか「kouka」	2月号	(農)酒人ふぁ～むで採種大豆選別に熟練が手腕発揮
こだわり。	春号	近江で育つ「大地の黄金」伝統的なミラクルフード
日本農業新聞	4/9	収穫運搬車で散水～雑草抑制へ工夫も

【平成23年度来視】

月 日	来 視 先	内 容	人数
1/10	NHK大津放送局 高橋記者	取材打合せ	1
1/16	奈良県桜井市 アグリ大泉	先進事例視察	15
1/19	京都新聞 日山記者	取材打合せ	1
1/21	J A岐阜中央会	先進事例視察	40
1/30	東近江市読合堂農業組合	先進事例視察	18
1/30	洲本市下内膳農地水環境保全隊	先進事例視察	5
2/ 3	三重県朝日町農業委員会	先進事例視察	11
2/23	亀岡市 犬甘野営農組合	先進事例視察	4
2/24	兵庫県相生市・赤穂市・上郡町集落営農活性化塾	先進事例視察	40
2/25	岡山県総社市担い手育成総合支援協議会	先進事例視察	23
3/ 3	農水省近畿農政局整備部長	現地視察	3
3/ 5	JA 大阪北部豊能地区実行組合長会	先進事例視察	16
3/ 6	越前市松ヶ鼻資源保全協議会庄町農家	先進事例視察	20
3/10	J Aぎふ 北方町生産者ほか	先進事例視察	16
3/13	奈良県 才音寺営農組合	先進事例視察	16
	広島県 川西里づくり委員会	先進事例視察	16
3/14	石川県中能登町基盤整備事業推進協	先進事例視察	27
3/16	岐阜県山県市水田農業担い手協議会	先進事例視察	40
3/17	越前市武生地区稲作協議会	先進事例視察	34
4/ 5	兵庫県西宮市甲陽学院高校足利教諭	研究	1
4/ 6	京都市西京区大原野農業者	先進事例視察	4
4/20	岡山県小田郡矢掛町農業委員会	先進事例視察	14
6/ 2	松下政経塾 第31期生	研究	3
6/20	農水省大臣官房政策課企画官ほか	視察	7
7/ 6	三重県松阪市朝見上土地改良区	先進事例視察	20
7/22	敦賀市二州地区企業的農業経営研究会	先進事例視察	12
	京都市西京区大原野農業者	先進事例視察	6
8/ 2	滋賀県立大学 増田助教	研究	2
8/21	岐阜県羽島市桑原土地営農組合	先進事例視察	35
8/25	韓国京畿道北内農業組合	先進事例視察	42
	兵庫県佐用町集落営農組織連絡協議会	先進事例視察	24
8/26	岐阜市水田農業担い手協議会	先進事例視察	40
8/27	兵庫県豊岡市清冷寺菜の花会	先進事例視察	34
8/28	洲本市下内膳農地水環境保全隊	先進事例視察	36
9/ 2	栃木県芳賀農業振興事務所	先進事例視察	2

月 日	来 視 先	内 容	人数
9/16	茨木市農業振興団体連合会作物部会	先進事例視察	61
9/17	滋賀県立大学 増田助教	研究	1
9/20	(株)家の光出版総合サービス	「月刊JA」取材	1
9/27	韓国江原道農漁村指導者	先進事例視察	30
10/14	同志社大学政策学部3回生北川・鏡	研究	2
10/19	近畿農政局 小栗局長ほか	視察	5
11/8	(社)ふくい農林水産支援センター	先進事例視察	26
11/10	香川県さぬき市志度土地改良区	先進事例視察	27
11/15	愛知県小牧市農業委員会	先進事例視察	17
11/17	三重県多気郡多気町自然を守る会	先進事例視察	41
11/18	JA北大阪営農不動産部会豊津支部	先進事例視察	33
12/1	JA大阪北部実行組合長会	先進事例視察	12
12/7	JA茨木農事改良組合長会	先進事例視察	11
12/13	県下地域農業センター	先進事例視察	25
	埼玉県JA南彩(なんさい)	先進事例視察	8
合 計	50先 (前年度比±0先)	928人(前年度比+192人)	

【平成23年度講師派遣】

月 日	派 遣 先	主 催	内 容
3/10	福島県二本松市	福島県県北農林事務所	研修会
6/17	大津サテライトプラザ	滋賀大学公共経営イブニングスクール	講義
11/16	東近江地域農業センター	東近江地域農業センター担い手部会	法人化相談会
11/25	神戸ポートピアホテル	JA全中全国大会トップフォーラム	実践報告
12/12	いわてアイーナ	岩手県農業会議	研修会事例発表
12/13	秋田県庁	秋田県農林水産部	基調講演

【平成23年度受講研修】

月 日	研 修	出 席 者	内 容
1/26	滋賀県担い手育成総合支援協議会経営改善研修会	企画管理部	事例報告
1/30	愛東マーガレットステーションほか	愛護会共同	視察研修
2/3	近畿地域大豆需要拡大促進相談会	伴	相談会
2/4	大規模稲作経営者部会	伴	総会
2/5	特別栽培米生産部会	伴	総会
	甲賀地域農業者のつどい	伴ほか	講演事例紹介
2/8	JAこうかいちじく生産部会	なごやかG	研修会
	水口町露地野菜部会	すこやかG 林	研修会
2/9	花野果倶楽部	すこやかGなごやかG	視察研修
2/15	甲賀地域農業センター	福西、伴	視察研修

月 日	研 修	出 席 者	内 容
2/23	近畿農政局	福西	説明会
2/26	5 J A合同農業機械展示会	西村、奥田	展示会
3/ 8	経営構造対策推進研究集会	福西	講演 事例報告
3/ 9	獣害対策検討会	福西ほか	検討会
3/15	みずすましネットワーク交流会	生産部	交流会
3/16	ねぎ類栽培研修会	伴、すこやかG	研修会
3/17	果樹研究発表会	伴、なごやかG	発表会
3/22	水口町露地野菜部会	すこやかG 谷口	総会
	種子大豆検討会	伴	検討会
3/28	花野果倶楽部	伴	総会
4/13	J Aこうかいちじく生産部会	伴	総会
4/22	水口町良質米研究会	伴	総会
5/14	高島市針江視察	企画管理部	視察研修
6/10	大豆種子採種計画会議	伴	会議
	J Aこうかいちじく生産部会	すこやかG	TIK 農産視察
6/26	春日宮農組合 直売所	営業部	視察研修
7/ 6	水口町露地野菜部会	伴、すこやかG	作付計画会議
7/14	甲賀地域農業センター	伴	栽培研修会
7/23	集落営農法人化研修会	福西	研修会
7/26	南瓜出荷に伴う規格の目合わせ会	伴、すこやかG	規格目合わせ
8/ 3	J Aこうかいちじく生産部会	伴、すこやかG	出荷目あわせ
8/ 5	加工用キャベツ栽培研修会	すこやかG	研修会
	水口町良質米研究会	伴	研修会
8/26	水口町良質米研究会	伴	圃場巡回
	集落営農法人情報交換会	企画管理部	情報交換
	J Aこうか稲わら生産供給組合	伴	総会
9/21	稲わら収集現地研修会	伴	研修会
9/30	J Aこうかいちじく生産部会	伴、なごやかG	検討会
10/14	食と農こだわり滋賀ネットワーク	菊地	甲賀農業体験
	契約キャベツ栽培研修会	伴、すこやかG	研修会
10/20	水口町露地野菜部会	伴	圃場巡回 研修
11/12	J A農業機械大展示会	伴ほか	展示会
11/18	先進地視察研修会	伴、菊地	京果 たわわ朝霧
12/ 2	全国ほんもの体験フォーラム	菊地	都市交流事業
12/20	J Aこうかいちじく生産部会	伴、すこやかG	反省会
12/21	契約キャベツ出荷研修会	伴、すこやかG	研修会

貸借対照表

農事組合法人酒人ふあーむ

2011年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	45,836,162	【流動負債】	16,427,691
現金・預金	21,710,153	未払金	12,069,873
売掛金	9,067,228	リース債務	345,618
農産物	106,200	未払法人税・預り金等	4,012,200
棚卸品	2,039,193	【固定負債】	58,683,397
未収金	2,889,862	長期借入金	48,415,000
仮払金	10,023,526	長期リース債務	345,618
【固定資産】	49,972,601	農業経営基盤強化準備金	9,922,779
【有形固定資産】	49,240,310	負債の部合計	75,111,088
建築物	44,615,395	純資産の部	
構築物	3,820,382	【資本金】	4,480,000
機械装置	15,338,540	出資金	4,480,000
農機具	34,078,007	【利益剰余金】	16,217,675
車両運搬具	2,630,000	利益準備金	4,480,000
工具器具備品	1,039,500	当期末処分剰余金	11,737,675
減価償却累計額	△57,199,584		
土地	2,844,362		
リース資産	2,073,708		
【投資その他の資産】	732,291		
外部出資金	50,000		
保険積立金	682,291		
		純資産の部合計	20,697,675
資産の部合計	95,808,763	負債・純資産合計	95,808,763

損益計算書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2011年 1月 1日 至 2011年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
経常損益の部		
【事業損益の部】		
【事業収益】		
【販売高】		
販 売 高	36,890,423	
奨 励 助 成 金	20,415,167	
販 売 高 合 計		57,305,590
【事業費用】		
【生産原価】		
当 期 商 品 仕 入 高	130,818	
期 首 農 産 物 棚 卸 高	44,100	
当 期 農 産 物 原 価	36,494,018	
合 計	36,668,936	
期 末 農 産 物 棚 卸 高	106,200	
事 業 原 価	36,562,736	36,562,736
事 業 総 利 益		20,742,854
【事業管理費】		
事 業 管 理 費 合 計	4,356,580	4,356,580
事 業 利 益		16,386,274
【事業外損益の部】		
【事業外収益】		
受 取 利 息	1,807	
雑 収 入	1,339,517	
事 業 外 収 益 合 計		1,341,324
【事業外費用】		
支 払 利 息	645,648	
事 業 外 費 用 合 計		645,648
経 常 利 益 金 額		17,081,950
【特別損益の部】		
【特別利益】		
集 積 準 備 金 取 崩 益	4,237,997	
そ の 他 特 別 利 益	769,000	
特 別 利 益 合 計		5,006,997
【特別損失】		
固 定 資 産 圧 縮 損	5,006,997	
前 期 損 益 修 正 損	141,644	
農 業 経 営 基 盤 強 化 準 備 金 繰 入	5,092,231	
特 別 損 失 合 計		10,240,872
税 引 前 当 期 純 利 益 金 額		11,848,075
法 人 税 等		110,400
当 期 純 利 益 金 額		11,737,675

事業管理費内訳書

農事組合法人酒人ふあーむ

自 2011年 1月 1日 至 2011年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額
福 利 厚 生 費	206,619
教 育 ・ 研 修 費	73,800
旅 費 交 通 費	9,799
広 告 宣 伝 費	986,881
通 信 費	158,397
交 際 費	669,720
諸 会 費	184,400
水 道 光 熱 費	109,546
修 繕 費	159,652
事 務 用 消 耗 品 費	408,379
租 税 公 課	499,761
賃 借 料	135,000
雑 費	387,861
税 務 顧 問 料	366,765
事 業 管 理 費 合 計	4,356,580

事業原価内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2011年 1月 1日 至 2011年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
【総事業費用】		
【資材費】		
種 苗 費	3,717,216	
肥 料 費	4,894,539	
農 薬 費	1,740,552	
諸 材 料 費	1,277,826	
合 計	11,630,133	
資 材 費 合 計		11,630,133
【労務費】		
農 業 労 災 費	197,335	
労 務 費 合 計		197,335
【その他生産費】		
農 具 費	138,070	
作 業 委 託 料	2,091,856	
土 地 改 良 水 利 費	2,452,340	
動 力 光 熱 費	1,895,668	
修 繕 費	4,498,841	
荷 造 運 賃 発 送 費	280,102	
租 税 公 課	10,947	
機 械 賃 借 料	223,125	
年 貢 料 (借 地 料)	5,121,324	
農 業 共 済 費	1,454,205	
雑 費	252,057	
減 価 償 却 費	6,248,015	
そ の 他 生 産 費 合 計		24,666,550
当 期 事 業 原 価		36,494,018
合 計		36,494,018
当 期 農 産 物 原 価		36,494,018

剰余金処分案

(単位:円)

当期末処分剰余金の処分

項 目	金 額
当期末処分剰余金の処分	11,737,675
合 計	11,737,675
これを次のとおり処分する	
従事分量配当金	11,737,675
次期繰越剰余金	0

以上のとおり報告します。

農事組合法人酒人ふあーむ

代 表 理 事	小 林 伊 佐 治
理 事	林 信 博
理 事	福 西 義 幸
理 事	西 村 清 秋
理 事	千 廣 友 次
理 事	伴 慎 也
理 事	山 領 茂

附属明細書

前期実績・事業計画実績対比

自2011年1月1日～至2011年12月31日

単位:千円

勘定科目	前期実績①		事業計画②		実績額③		前期対比③-①		予算対比③-②	
	金額	@	金額	@	金額	@	金額	@	金額	@
[耕作面積]										
		406.1		408.2		408.2		2.1		0
[事業収益]										
[販売高]										
販売高	34,616	85	41,144	101	36,890	90	2,274	6	-4,254	-10
奨励・助成金	22,867	56	19,000	47	20,415	50	-2,452	-6	1,415	3
販売高合計	57,483	141	60,144	147	57,305	140	-178	0	-2,839	-7
[事業費用]										
[期首農産物棚卸]	59		44		175		116		131	
[資材費]										
[生]種苗費	2,950	7	3,585	9	3,717	9	767	2	132	0
[生]肥料費	6,225	15	6,370	16	4,895	12	-1,330	-3	-1,475	-4
[生]農薬費	2,252	6	2,585	6	1,741	4	-511	-1	-844	-2
[生]諸材料費	536	1	569	1	1,278	3	742	2	709	2
生産資材費合計	11,963	29	13,109	32	11,630	28	-333	-1	-1,479	-4
[労務費]										
[生]農業労災費	194	0	150	0	197	0	3	0	47	0
労務費合計	194	0	150	0	197	0	3	0	47	0
[その他生産費]										
[生]動力光熱費	1,661	4	1,700	4	1,896	5	235	1	196	0
[生]修繕費	6,195	15	4,000	10	4,637	11	-1,558	-4	637	2
[生]機械賃借料	239	1	250	1	223	1	-16	0	-27	0
[生]年貢料(借地料)	5,158	13	5,120	13	5,121	13	-37	0	1	0
[生]作業委託料	1,642	4	2,200	5	2,092	5	450	1	-108	0
[生]土地改良水利費	2,453	6	2,400	6	2,452	6	-1	0	52	0
[生]農業共済費	1,521	4	1,450	4	1,452	4	-69	0	2	0
[生]生調拠出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[生]機械リース料	92	0	90	0	0	0	-92	0	-90	0
[生]荷造運賃送料	308	1	600	1	280	1	-28	0	-320	-1
[生]雑費	451	1	500	1	263	1	-188	0	-237	-1
[生]減価償却費	8,536	21	9,000	22	6,248	15	-2,288	-6	-2,752	-7
その他生産費合計	28,256	69	27,310	67	24,667	60	-3,589	-9	-2,643	-6
[期末農産物棚卸]	44		100		106		62		39	
事業費用合計	40,428	99	40,513	99	36,563	90	-3,865	-9	-3,950	-10
[事業総利益]	17,055	42	19,631	48	20,743	51	3,688	9	1,112	3
[生]労務費(従事分量配当)	13,254	32	13,900	34	11,738	29	-1,516	-4	-2,162	-5
[改め事業総利益]	3,801	9	5,731	14	9,005	22	5,204	13	3,274	8
[事業管理費]										
事業管理費合計	6,490	16	4,000	10	4,357	11	-2,133	-5	357	1
[事業利益]	-2,689	-7	1,731	4	4,649	11	7,338	18	2,918	7
[事業外損益]	1,355	3	0		696	2	-659	-2	696	2
[経常利益]	-1,334	-3	1,731	4	5,344	13	6,678	16	3,613	9

(注)従事分量配当金は労務費として計算しています。

平成23年度事業実績明細表

自 2011/1/1 ~ 至 2011/12/31

単位:千円

勘定科目	米作		麦作		大豆		野菜		ハウス野菜		育苗	その他	合計
[耕作面積]	239.3反		152.3反		152.3反		13.3反		3.3反				408.2反
[事業収益]													
農産物売上高	24,450	102	1,173	8	6,785	45	1,498	113	647	196	202	0	34,754
その他売上高	2,077	9	27	0	27	0	4	0	1	0	2,738	-2,738	2,137
奨励助成金	7,857	33	8,490	56	3,320	22	445	33	107	33	196	0	20,415
売上高合計	34,384	144	9,690	64	10,131	67	1,947	146	756	229	3,135	-2,738	57,306
事業原価													
期首棚卸	26		8		8		1		0		0	0	44
商品仕入高	0		0		0		0		131		0	0	131
[資材費]													
[生]種苗費	2,738	11	490	3	375	2	597	45	107	32	2,147	-2,738	3,717
[生]肥料費	2,015	8	2,207	14	0	0	662	50	11	3	0	0	4,895
[生]農薬費	1,163	5	193	1	209	1	174	13	1	0	0	0	1,741
[生]諸材料費	726	3	109	1	165	1	220	17	57	17	0	0	1,278
資材費合計	6,641	28	2,999	20	750	5	1,654	124	177	53	2,147	-2,738	11,630
[労務費]													
[生]労災保険費	114	0	37	0	37	0	6	0	2	1	0	0	197
労務費合計	114	0	37	0	37	0	6	0	2	1	0	0	197
[経費]													
[生]動力光熱費	1,099	5	360	2	360	2	57	4	19	6	0	0	1,896
[生]農具修繕費	2,566	11	841	6	841	6	133	10	256	78	0	0	4,637
[生]機械賃借料	104	0	34	0	34	0	50	4	2	1	0	0	223
[生]年貢料(借地料)	2,970	12	973	0	973	6	154	0	51	16	0	0	5,121
[生]作業委託料	364	2	1,143	8	584	4	0	0	0	0	0	0	2,092
[生]農業水利費	1,422	6	466	0	466	3	74	6	25	7	0	0	2,452
[生]農業共済費	1,021	4	270	2	135	1	21	2	7	2	0	0	1,454
[生]生調拠出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[生]リース料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[生]荷造発送費	9	0	0	0	0	0	171	13	100	30	0	0	280
[生]雑費	149	1	49	0	55	0	8	1	3	1	0	0	263
[生]減価償却費	3,624	15	1,187	8	1,187	8	187	14	62	19	0	0	6,248
経費合計	13,329	56	5,324	35	4,635	30	854	64	525	159	0	0	24,667
期末棚卸	56		0		50		0		0		0	0	106
事業原価合計	20,054	84	8,368	55	5,381	36	2,516	189	835	213	2,147	-2,738	36,563
事業総利益	14,330	60	1,321	9	4,750	31	-568	-43	-79	-24	988	0	20,742
[生]労務費	4,964	21	1,263	8	2,426	16	2,098	158	988	299	0	0	11,738
改め事業総利益	9,366	39	59	0	2,325	15	-2,666	-200	-1,067	-323	988	0	9,004
[事業管理費]	2,527	11	828	5	828	5	131	10	44	13	0	0	4,357
事業利益	6,839	29	-769	-5	1,497	10	-2,797	-210	-1,110	-336	988	0	4,648
[事業外損益]	403	2	132	1	132	1	21	2	7	2	0	0	696
経常損益	7,243	30	-637	-4	1,629	11	-2,776	-209	-1,103	-334	988	0	5,344

(注) 従事分量配当金は労務費として計算しています。

監 査 報 告 書

平成 24 年 2 月 19 日

農事組合法人酒人ふぁ～む
代表理事 小林 伊佐治 様

監 事 東浦 常夫 ㊟

監 事 奥村 信行 ㊟

私たち監事は、平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日までの第 10 期事業年度の理事の職務の遂行、事業報告書、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案並びに附属明細書について監査しました。その結果につき以下のとおり報告いたします。

- (1) 貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、組合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 剰余金処分案は、法令及び定款に適合しており、組合財産の状況及びその他の事情に照らし、指摘すべき事項は認められません。
- (4) 附属明細書については、特に指摘すべき事項は認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

平成24年度基本方針

〔基本テーマ〕

第五次3ヵ年（23年～25年）

「選択」と「集中」 安定経営への基盤構築

〔理念〕

1. 人づくり
2. 組織づくり
3. 産地づくり
4. 地域づくり
5. お客様づくり

〔基本方針〕

1. 将来に向けた経営資源の確保
2. 高収益基盤体制の確立
3. 販売ルートの拡大戦略
4. 人材育成と後継者の育成
5. お得意様との交流の場の拡大
6. IT活用による情報の共有化

TPPへの参加により将来の農業経営が大きく左右されます。現段階では、結論が出されていませんが、将来的には、農業分野においても自由貿易体制に入ることは十分に予測しておかなければなりません。

当組合は、今まで経営コンサルの指導や先進地研修等により得た農業経営の成功事例や多くの情報を生かし、今後の安定した農業経営の持続できる経営体制の確立を具現化してまいります。

1. 将来に向けた経営資源の確保

補助金有効活用による農業機械投資が一巡し、今後はメンテナンスや更新への費用負担が増加する見通しから、余裕資金の確保と収益確保が最重要課題です。そのため、組合員のご協力を得ながら、平成22年から4年間かけて現在の出資金を3倍まで増額することにより自己資本の充実を図り、安定経営を目指すものとします。

2. 高収益基盤体制の確立

消費者ニーズは、徹底した安価な商品と安心・安全な商品を選択するものが2分化する傾向にあることから、日本製品（商品）の高信頼性と高品質の信用から海外から日本製品を求める傾向は拡大するものと考え、当組合においても、安心・安全・高品質な商品生産への生産体制と生産技術の確立を図り、高付加価値商品の生産戦略を推進いたします。

特に、こだわり農産物の生産からさらに「徹底的にこだわった農産物（無農薬・無化学肥料）」の生産へ、生産技術の蓄積を図り、実現に向けて対応してまいります。

3. 販売ルートの拡大戦略

ホームページやメール等を利用した旬の情報発信に努め、パンフレット・HP上のネット販売等を利用した販売促進戦略を実施してまいります。

今後、こまめな営業展開・販路拡大・販売品目の充実・集客商品の品揃えなどアイデアを出し合いながら、「酒人ふぁーむ」ブランドを売りながら消費者から見える・商品の品揃えに努めてまいります。

4. 人材育成と後継者の育成

担い手が高齢化する中、農業技術や農業経営に精通した人材を確保・育成するため、専従者制度の拡大と待遇改善を図り、少数精鋭による運営を進めます。

作業効率を向上するための機械化投資を継続的に行うとともに、オペレータの技術習得に重点を置いた教育体制を行い、就業機会を拡大すると同時にオペレータの資質向上を図ってまいります。

5. お得意様との交流の場の拡大

毎月定期的な直販市場の開催を企画し、お得意さんから生産者の顔の見える機会を拡大と商品の品揃えを徐々に増やすことにより、顧客（消費者）が酒人へ足を運んでもらえる機会の増やし、口コミやマスコミ等を利用したイベント開催をアピールし、組合の認知度を高め顧客拡大に努めてまいります。

6. IT活用による情報の共有化

昨年度にグループウェアの導入等を行い、これらのツールを生かして販売促進活動や関係者間での情報共有を進め、お互い組織の動きが見える体制を充実してまいります。

出役体制、栽培状況、原価管理、さらにイベント情報などをIT利用により勘から情報を利用した生産・経営活動に移行できるよう、出来るところから改革を推進してまいります。

平成24年度事業計画書

生産部

昨年度から麦・大豆を含めた戸別所得補償制度が本格実施され、国においては「食と農林漁業の再生推進本部」で持続可能な力強い農業を育てるための対策が検討され昨年10月に基本方針・行動計画がまとめられました。併せて、6次産業化を推し進めるための施策がより一層講じられています。さらに、TPP協定参加への各国との協議入る表明など農業の根幹を崩す議論がなされ、農家の生活を脅かす状態にあります。しかし、我々には、昨年度の漢字一文字に選ばれた「絆」があります。このような新政策や情勢を的確に把握しつつ、今までの作付け方針を維持しながら、攻めの農業を考え、食糧、農業、農村を担っている農業法人としての誇りと使命をもって取り組みます。

栽培

- ・営業部との両輪で「売るために作る」「求められているものを作る」をスローガンに安全、安心、顔の見える新鮮な食材を生産します。
- ・機械施設部と連携した農機の効率稼働による生産コスト削減に努めます。
- ・各グループとの連携をとり、野菜、果樹の栽培により力を入れます。

[重点方針]

1. 品質・環境に配慮した農業
減化学肥料、減農薬栽培技術の修得及び無農薬・無化学肥料への取組
2. 売価に見合った生産原価
コスト意識と営業意識の徹底
3. 的確な栽培管理
増収、品質アップ、安定技術による生産工程管理の実施
4. 新規作物・新技術の導入
イチジク栽培の定着と産直への対応強化

[事業計画]

① 24年度穀類生産計画

水		栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
稲	うるち玄米	1,851.4	510	8.5	94,421	1,573.7
	もち(羽二重)玄米	321.5	480	8.0	15,432	257.2
	合計	2,172.9	506	8.43	109,085	1,830.9

小 麦		栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
	農林61号	1,743.1	300	5	52,293	872
	合計	1,743.1	300	5	52,293	872

大 豆		栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
ふくゆたか	種子用	1,231.4	180	3	22,165	369
	食糧用	511.7	210	3.5	10,731	179
	合計	1,743.1	190	3.17	32,896	548

② 24年度野菜栽培形態別生産計画

露 地	品 目	栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
	ブロッコリー	20.0	500	100箱	1,000	200箱
	白菜	30.0	3,000	200箱	9,000	600箱
	キャベツ	30.0	4,000	20コンテナ	12,000	60コンテナ
	いちじく	23.6				1,500パック
	ねぎ	15.0	4,500	300箱	6,750	450箱

ハ ウ ス	品 目	栽培面積 (a)	1a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
	小松菜	12.0	120	600袋	1,440	7,200袋
	トマト	4.0	400	100箱	1,600	400箱
	いちじく	3.0				200パック

③ 24年度耕畜連携稲わら生産計画（JA稲わら生産供給組合）

稲 わ ら		採集面積 (a)	10a当り		生産量	
			収集量 (kg)	梱包 (7kg)	総収集量 (kg)	出荷量 (梱包)
	飼料用稲わら	1,200	280	40	33,600	4,800
	合計	1,200	280	40	33,600	4,800

労 務

効率的な作業体制確立のため、企画管理部と共に経営認識を高揚するハード面での体制整備を行い、役員専従・OP専従への労務見通しと同時に農作業のマニュアル化を図ります。

[重点方針]

1. プロらしい効率作業
2. プロが耕す農地保全
3. 未然に防ごう労働災害
4. 農作業機械操作技術の習得

[事業計画]

- ① 作業手順の確立
作業マニュアルの作成による稼ぐための労務
- ② 就労時間が作物別収支のバロメーター
作物別労務配分の強化

【作物別労働時間計画】

(単位：時間)

	水稻		小麦	大豆	露地野菜	ハウス野菜	共通	合計
	栽培・収穫	稲わら収集	栽培・収穫	栽培・収穫 手選別	栽培・収穫	栽培・収穫	営業・事務・施設	
配分率	20%	4%	4%	23%	25%	12%	12%	100%
1月	50			1,200	200	90	150	1,690
2月	50			900	200	100	300	1,550
3月	80		30		150	100	80	440
4月	300		20		150	100	80	650
5月	500		160		200	100	80	1,040
6月	130		180	50	300	140	100	900
上期	1,110	0	390	2,150	1,200	630	790	6,270
7月	150			150	350	140	110	900
8月	150			50	350	140	120	810
9月	600	200		50	500	140	120	1,610
10月	400	290	50	50	400	180	140	1,510
11月	90		140	40	200	170	130	770
12月	100		20	500	250	160	100	1,130
下期	1,490	490	210	840	2,050	930	720	6,730
合計	2,600	490	600	2,990	3,250	1,560	1,510	13,000

営 業 部

営業部では、消費者に食の安全、安心をアピールし、インターネットにおける販売促進及び直売所設立に向けた販売方法を確立していきます。
 具体的な販売活動として、酒人製品の定期的な販売会を実施します。

[重点方針]

1. 米の販路拡大戦略
 完全有機・無化学肥料米の販路開拓
2. 農産物の地域ブランド戦略
 売るために、パンフレット配布によるPR強化



[事業計画]

- ① 米の販売強化
 - 縁故米の更なる推進
 - 近隣地区への販売促進（PR強化）
 - インターネットによる販売促進
- ② 酒人製品の販路拡大
 - イベント開催および直売所による販売



① 24年度穀類市場（マーケット）別販売計画

水	業 販		出荷量 (俵)	出荷単価 (円/俵)	販売高 (千円)
		うるち玄米		1,013	12,000
	もち(羽二重)玄米		250	14,400	3,600
	小 計		1,263	12,154	15,756
稲	直 販		販売量 (俵)	販売単価 (円/俵)	販売高 (千円)
		うるち玄米	560	15,400	8,624
		もち(羽二重)玄米	7	20,400	143
		小 計	567	15,426	8,767
合 計			1,830	13,179	24,523

小麦	業 販		出荷量 (俵)	出荷単価 (円/俵)	販売高 (千円)
		農 林 6 1 号		872	1,050
合 計			872	1,050	916

大豆	業 販		出荷量 (俵)	出荷単価 (円/俵)	販売高 (千円)
	ふくゆたか	種子用	369	22,000	8,118
		食糧用	179	3,000	537
合 計			548	14,447	8,655

② 24年度野菜栽培形態別販売計画

露地	品目	出荷量	売価単価(円)	販売高(千円)
	ブロッコリー	200箱	1,000	200
白菜	600箱	700	420	
キャベツ	60コンテナ	10,000	750	
いちじく	1,500パック	400	600	
ネギ	450箱	2,000	420	
小計				2,390
ハウス	小松菜	7,200袋	66	474
	トマト	400箱	800	320
	いちじく	200パック	400	80
	小計			
合計				3,264

野菜市場(マーケット)別販売計画

品目	業販				直販				合計	
	大津・京都市場出荷		中食・外食・食材企業		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量 (-)	販売高 (千円)
	数量 (東・箱)	販売高 (千円)	数量 (東・箱)	販売高 (千円)	数量 (袋・東・個)	販売高 (千円)	数量 (袋・東・個)	販売高 (千円)		
ブロッコリー	160	160	—	—	30	30	10	10	200	200
白菜	585	410	—	—	10	7	5	4	600	420
キャベツ	55	700	—	—	5	50	—	—	60	750
いちじく	1,000	400	—	—	700	280	—	—	1,700	680
ネギ	430	380	—	—	20	40	—	—	450	420
小松菜	5,500	338	—	—	1,700	136	—	—	7,200	474
トマト	300	240	—	—	90	72	10	8	400	320
合計		2,628	—	—		615		22	—	3,264

※業販=JA・市場等への業者を通じた販売(学校給食含む)

直販=直売所、ネット等を通じた直接販売

③ 耕畜連携稲わら販売計画(JA甲賀稲わら生産供給組合)

稲わら	業販	出荷量(梱包)	※出荷単価(円/梱包)	販売高(千円)
	飼料用稲わら	4,800	350	1,680
	合計	4,800	350	1,680

※1梱包=7kgとした場合



機械施設部

安全・安心・新鮮な農産物の地産地消及び多品目栽培、販売を提供するための機械および施設の「攻め」の設備投資を、各部と連携して進めてまいります。

補助事業に頼らず、今ある経営資源を活かしつつ効率化が図るのは勿論ですが、顧客満足を目指し売るため今必要な設備・機械投資を行います、更に機械の修繕箇所の早期の発見により経費を削減し低コスト農業に努めます。

[重点方針]

1. 6次産業化に向けた「攻め」の管理
2. 保有資源を見直し「守り」の管理
3. 低コスト農業のための自己管理

[事業計画]

- ① 加工部門販売施設への準備
 - ・ 他組織への研修・検討・計画作成準備
- ② 今できることから始める
 - ・ 機械設備に強いオペレーターの養成とともに誰もが操作できるようマニュアルをつくりまます。
 - ・ みんなの共有財産である意識による丁寧な取り扱い
- ③ コストをおさえた経営
 - ・ 効率稼働・修繕箇所の早期発見（日常点検の強化）。

投資計画(平成24年度～25年度)

(単位 千円)

年度	投資予定資産	投資金額
24年度	玄米用色彩選別機	3,500
	石排出機交換	530
	フレコン出荷対応施設・設備工事含む	560
	トラクター34ps クラス (中古)	1,000
	シズオカ遠赤乾燥機 50石 2台 リース7年	700
	小 計	6,290
25年度	精米施設・設備	4,440
	大豆選別機	2,650
	農産物加工販売施設	8,000
	米ぬか乾式ペレット成形機	1,850
	小 計	16,940
	合 計	23,230

※ 助成事業があれば、対応していきます。

企画管理部

[重点方針]

1. 「管理」から「企画」・「実践」に重心をおいた部内運営
2. 農業自由化への対応～安定した経営基盤の確立
3. 6次産業化への対応～当地にあった仕組みづくり
4. 魅力のある、働きがいのある組織体制づくり

[具体的実施内容]

1. 直販体制を定着させるための準備
 - ①付加価値の高い商品開発にチャレンジ
完全有機・無化学肥料米の栽培技術を蓄積し、安定した生産を目指します。
 - ②少量多品種（何でも揃う）による品揃え体制の検討
定期的な市と収穫感謝祭の開催で、消費者に認知してもらい、販売の機会をつくります。区民個人から生産物を提供いただくことも検討します。
2. 低コスト農業の実現
 - ①個別原価管理の導入検討
出勤簿・日報入力用のパソコンを導入し、入力された日次原価データをもとに参画者には採算を意識してもらえる仕組みを検討していきます。
 - ②作業方法の見直し
草取りなどの人手のかかる作業を生産部と、修繕費のかかる作業を機械施設部と連携して、農法そのものを見直します。
 - ③従事分量配当の抑制と見直し
生産部と連携し、連絡網をシステム化し、適期に適正な労働力を確保できる体制を検討します。また、作業時間単価や手当も見直します。
3. 組織の強化
グループ内およびグループ間の連携を強化し、意思疎通を図り、目標・計画・進捗状況を共有し、達成感を感じてもらえる仕組みをつくります。
4. 貸農園事業の開始
所有から利用の時代。耕作放棄地対策として、畑地の一部を貸農園として区内外の農業意欲のある方に広く貸出し、耕作者と組合とのふれあいの場として利用促進を図ります。
5. 利用権の設定
農業委員会に利用権（期間更新）を認めてもらうことで、これまで築いてきた農地集積を維持継続することができます。地権者のメリットを考慮しながら進めてまいります。ご賛同よろしくお願い申し上げます。

平成24年度事業計画明細表

自 2012/1/1 ~ 至 2012/12/31

単位:千円

勘定科目	米作		麦作		大豆		野菜		ハウス野菜		育苗	その他	合計
[耕作面積]	217.3反		174.3反		174.3反		13.3反		3.3反				408.2反
[事業収益]													
農産物売上高	25,092	115	1,177	7	8,944	51	2,390	180	874	265	202	0	38,679
その他売上高	1,680	8	0	0	0	0	0	0	0	0	2,920	-2,920	1,680
奨励助成金	6,389	29	9,626	55	3,700	21	414	31	97	29	196	0	20,421
売上高合計	33,161	153	10,803	62	12,644	73	2,804	211	971	294	3,318	-2,920	60,780
事業原価													
期首棚卸	56		0		50		0		0		0	0	106
商品仕入高	0		0		0		0		0		0	0	0
[資材費]													
[生]種苗費	2,920	13	441	3	293	2	550	41	150	45	2,443	-2,920	3,877
[生]肥料費	2,695	12	3,300	19	181	1	400	30	100	30	0	0	6,676
[生]農薬費	869	4	108	1	443	3	200	15	30	9	0	0	1,650
[生]諸材料費	717	3	231	1	109	1	209	16	83	25	0	0	1,349
資材費合計	7,201	33	4,080	23	1,026	6	1,359	102	363	110	2,443	-2,920	13,552
[労務費]													
[生]労災保険費	114	1	37	0	37	0	6	0	2	1	0	0	197
労務費合計	114	1	37	0	37	0	6	0	2	1	0	0	197
[経費]													
[生]動力光熱費	1,102	5	361	2	361	2	57	4	19	6	0	0	1,900
[生]農具修繕費	2,825	13	925	5	925	5	146	11	179	54	0	0	5,000
[生]機械賃借料	116	1	38	0	38	0	106	8	2	1	0	0	300
[生]年貢料(借地料)	2,971	14	973	0	973	6	154	0	51	16	0	0	5,122
[生]作業委託料	364	2	1,541	9	682	4	0	0	0	0	0	0	2,587
[生]農業水利費	1,423	7	466	0	466	3	74	6	25	7	0	0	2,453
[生]農業共済費	1,015	5	269	2	133	1	21	2	7	2	0	0	1,445
[生]生調拠出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[生]リース料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[生]荷造発送費	9	0	0	0	0	0	250	19	100	30	0	0	359
[生]雑費	145	1	48	0	53	0	8	1	3	1	0	0	256
[生]減価償却費	3,596	17	1,178	7	1,178	7	186	14	62	19	0	0	6,200
経費合計	13,565	62	5,799	33	4,810	28	1,001	75	447	135	0	0	25,621
期末棚卸	80		0		30		0		0		0	0	110
事業原価合計	20,857	96	9,916	57	5,893	34	2,366	178	812	246	2,443	-2,920	39,367
事業総利益	12,304	57	887	5	6,751	39	438	33	159	48	875	0	21,413
[生]労務費	5,566	26	1,413	8	2,663	15	2,331	175	1,027	311	0	0	13,000
改め事業総利益	6,738	31	-526	-3	4,088	23	-1,893	-142	-868	-263	875	0	8,413
[事業管理費]	2,610	12	855	5	855	5	135	10	45	14	0	0	4,500
事業利益	4,128	19	-1,381	-8	3,233	19	-2,028	-152	-913	-277	875	0	3,913
[事業外損益]	403	2	132	1	132	1	21	2	7	2	0	0	696
経常損益	4,532	21	-1,249	-7	3,365	19	-2,007	-151	-906	-275	875	0	4,609

(注) 従事分量配当金は労務費として計算しています。

任期满了による役員を選任について

(定款 第19条 第20条)

○役員推薦委員会により推薦された役員候補者名簿

理事候補者（7名）

福西 義幸

林 信博

西村 清秋

千廣 友次

山領 茂

伴 慎也

藤田 貢

監事候補者（2名）

小林 伊佐治

坂田 精平

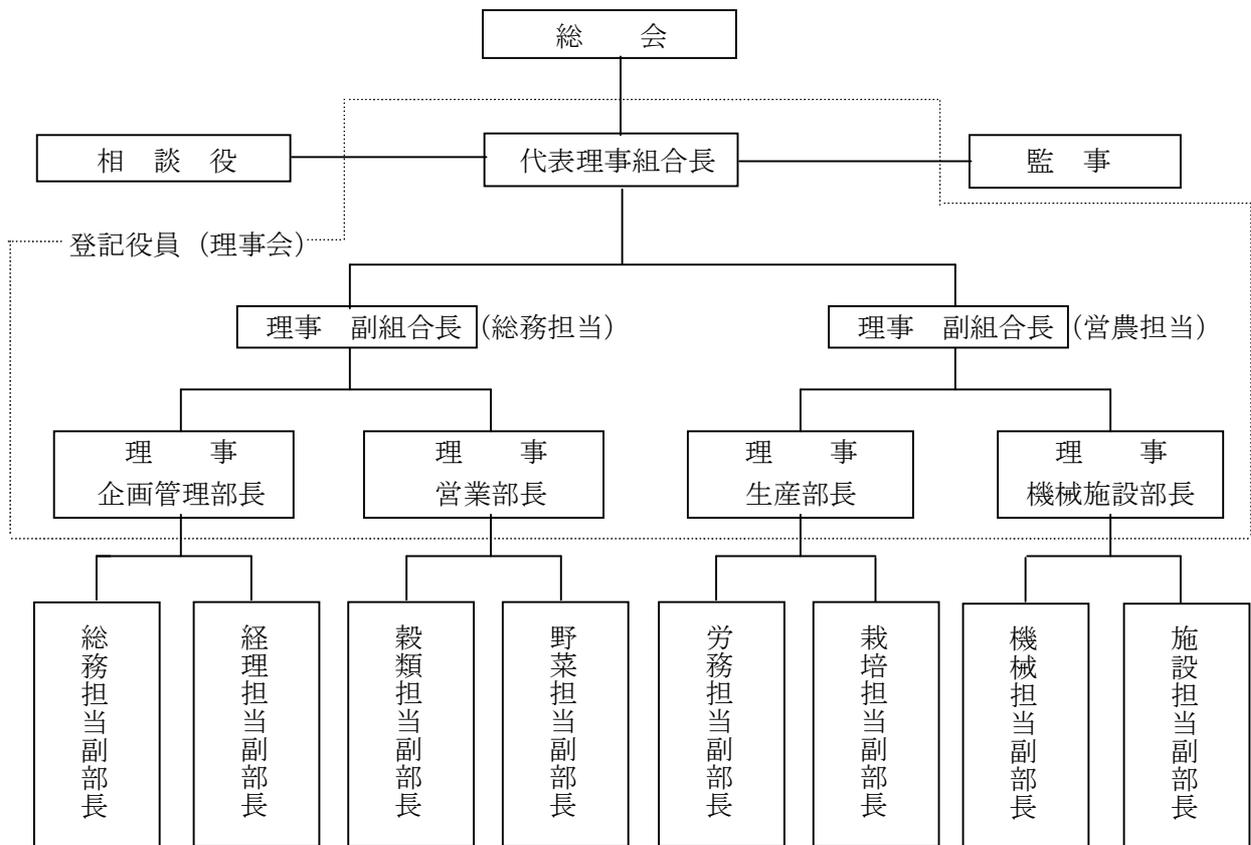
※ 敬称略 順不同

※ 理事の職務担当につきましては理事の互選とします。

※ 監事の職務担当につきましては監事の互選とします。

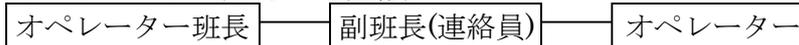
農事組合法人酒人ふあ～む組織図

平成 24 年 2 月 26 日現在



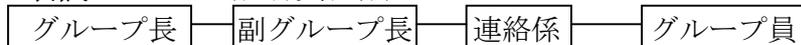
酒人ふあ～む協力組織

① オペレーターグループ (ふあ～む直轄)



☆酒人区内に居住し、集落営農の趣旨に賛同し、オペレーターとして出役が可能で
営農意欲のある 20 歳以上 55 歳以下の男子 (登録制)

② なごやか営農グループ (組合員組織)



☆酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務 (作業) に出役頂ける
56 歳以上 65 歳未満の男子及び 20 歳以上 65 歳未満の女子

③ すこやか営農グループ (組合員組織) ～酒人老人会のメンバー



☆シルバー世代の酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務 (作業)
の一部を担当頂くグループ

④ やすらぎ営農グループ (ボランティア) ～酒人敬老会の大関・横綱グループ

☆囲炉裏端会議のメンバーで、雑草取りの名人



農事組合法人 酒人ふあ〜む

2012/2/26